

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 6 年 4 月 3 日(2024.4.3)

【国際公開番号】 WO2022/259382
【出願番号】 特願 2023-526692(P2023-526692)
【国際特許分類】
A 61 F 2/89(2013.01)
【FI】
A 61 F 2/89

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 5 年 12 月 7 日(2023.12.7)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0033
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【0033】

端部ストラット 20 と隣接しているストラット 30 は、周方向における波の位相が端部ストラット 20 に対して 180°ずれて配置されている。すなわち、一方の端部ストラット 20 (図 1 では紙面下側の端部ストラット 20) と隣接しているストラット 30 は、山部 32 が端部ストラット 20 の山部 24 と軸方向で向かい合って配置されている。また、他方の端部ストラット 20 (図示を省略するが、紙面上側の端部ストラット 20) と隣接しているストラット 30 は、山部 32 が端部ストラット 20 の山部 24 と軸方向で向かい合って配置されている。これらの端部ストラット 20 と隣接しているストラット 30 の夫々の山部 32 は、軸方向で向かい合っている端部ストラット 20 の山部 24 と、リンク 60 を介して繋がっている。

20

【手続補正 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0034
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【0034】

30

軸方向で互いに隣接している 2 つのストラット 30 は、一方のストラット 30 の複数の山部 32 のうち一部の山部 32 a と、他方のストラット 30 の複数の山部 34 のうち一部の山部 34 a とが、後に詳述するリンク 70 を介して繋がっている。例えば、一周で 9 周期の波状であるストラット 30 を備える本実施形態では、軸方向に隣接するストラット 30 同士が周方向に等間隔で配置された 3 つのリンク 70 にて繋がっている。一方のストラット 30 の山部 32 a に対してリンク 70 にて繋がれる他方のストラット 30 の山部 34 a は、他方のストラット 30 の複数の山部 34 のうち、一方のストラット 30 の山部 32 a に最も近い山部 34 である。

40

また、軸方向に並ぶ複数のストラット 30 のうち n 番目 (ただし、n は 2 以上の偶数) のストラット 30 と (n-1) 番目のストラット 30 とを繋ぐリンク 70 は、n 番目のストラット 30 と (n+1) 番目のストラット 30 とを繋ぐリンク 70 に対し周方向にずれている。さらに、n 番目のストラット 30 と (n-1) 番目のストラット 30 とを繋ぐリンク 70 は、n 番目のストラット 30 と (n+1) 番目のストラット 30 とを繋ぐリンク 70 に対し傾く向きが逆になっている。ここで、山部 32 a は第一山部の一例であり、山部 34 a は第二山部の一例である。また、奇数番目のストラット 30 を第 1 ストラットの一例とすると、偶数番目のストラット 30 が第 2 ストラットの一例となり、奇数番目の

50

ストラット 30 を第 2 ストラットの一例とすると、偶数番目のストラット 30 が第 1 ストラットの一例となる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

比較形態のステント 110 は、図 4 に示されるように、実施形態のステント 10 における延長部 44、54 を有さない。また、ステント 110 は、軸方向に隣り合う 2 つのストラット 130 のうち一方のストラット 130 の山部 32a と他方のストラット 130 の山部 34a とが、リンク 170 によって一体的に繋がっている。リンク 170 は、二等分線 D1 に対する繋ぎ対象の山部 32a 側の部位から該山部 32a に向かって延びている。逆に見ると、リンク 170 は、二等分線 D2 に対する繋ぎ対象の山部 34a 側の部位から該山部 34a に向かって延びている。すなわち、比較形態のステント 110 は、リンク 170 が山部 32a 又は山部 34a 夫々の二等分線に対して片側から延びている（つまり、周方向における二等分線 D1、D2 の間にのみ位置する）。また、リンク 170 の縁部 174 は、両端が直線状に形成されている。すなわち、リンク 170 の縁部 174 は、径方向から見て、山部 32a 側である一端が山部 32a との境界で山部 32a の縁と共通接線を成していない。また、リンク 170 の縁部 174 は、径方向から見て、山部 34a 側である他端が山部 34a との境界で山部 34a の縁と共通接線を成していない。以上の点以外については、比較形態のステント 110 は、実施形態のステント 10 と同様の構成とされている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0066

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0066】

一方、実施形態のステント 10 は、一方のストラット 30 の延長部 44、54 が山部 32a、34a を二等分する二等分線 D1、D2 に対する両側から他方のストラット 30 側に二等分線 D1、D2 に沿って延びている構成を有している。また、実施形態のステント 10 は、延長部 44、54 が架渡し部 72 にて架け渡されている。これにより、実施形態のステント 10 は、比較形態のステント 110 と比して、縮径状態又は拡張状態から拡張状態又は縮径状態への変移に伴ってリンク 70 及びその周辺の部位に応力が集中しにくい。よって、実施形態のステント 10 は、一方のストラット 30 の山部 32a の周方向における位置が他方のストラット 30 の山部 34a に対してずれているステントにおいて、比較形態のステント 110 と比して、ステント 10 の拡張後の形状精度が向上する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

10

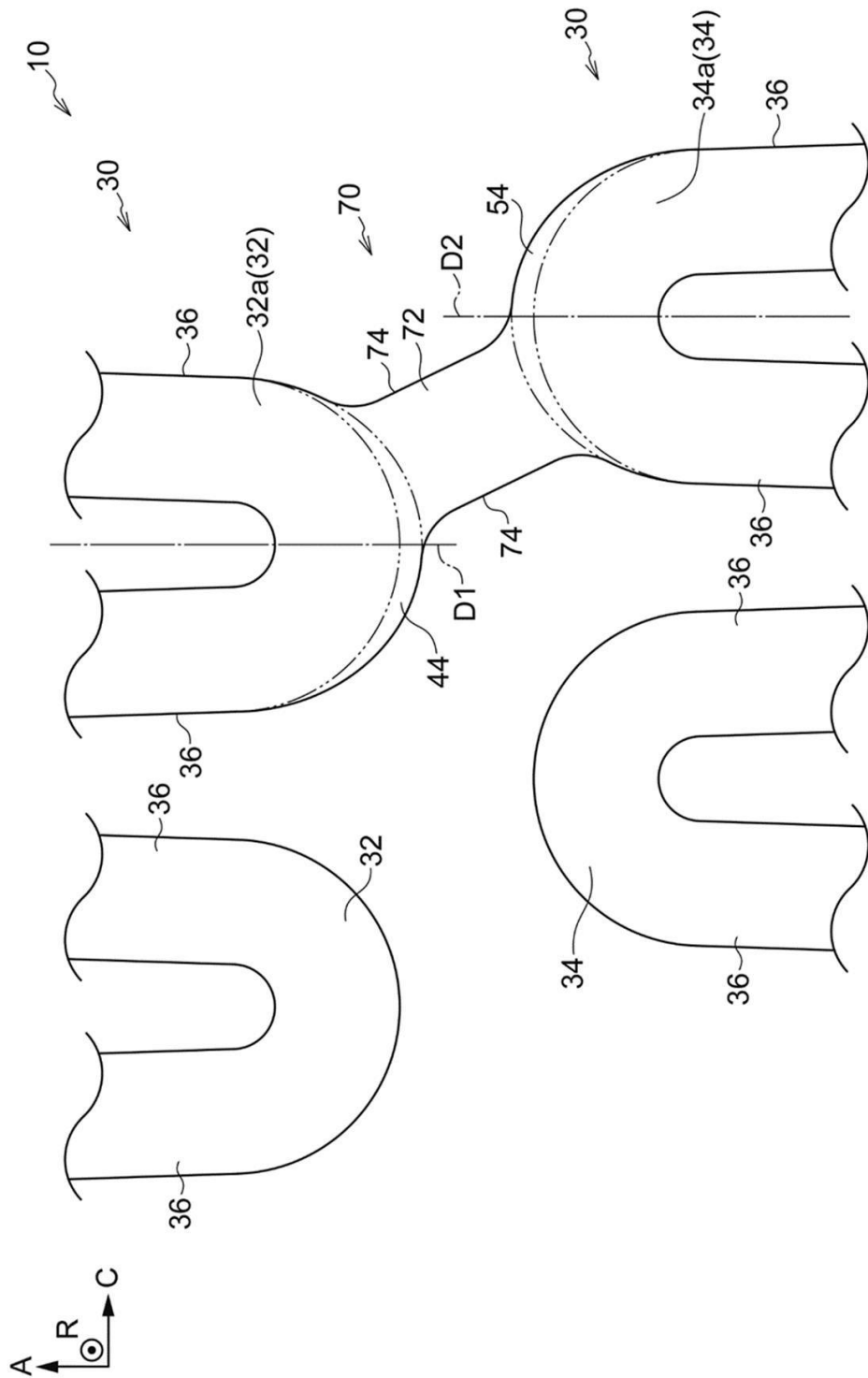
20

30

40

50

【図 2】



【手続補正 6】

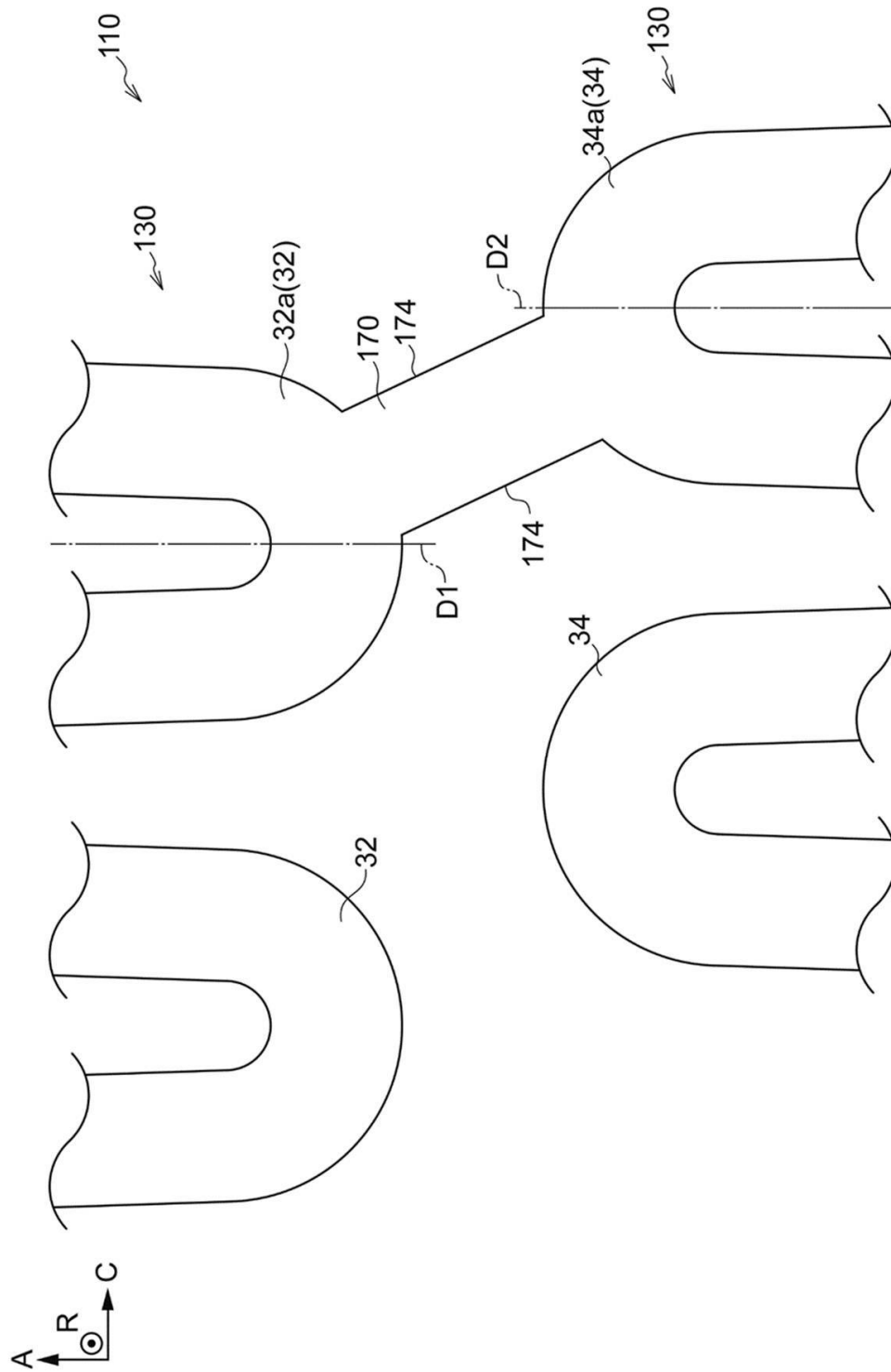
【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 4

【補正方法】變更

【補正の内容】

【図 4】



【手続補正 7】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

10

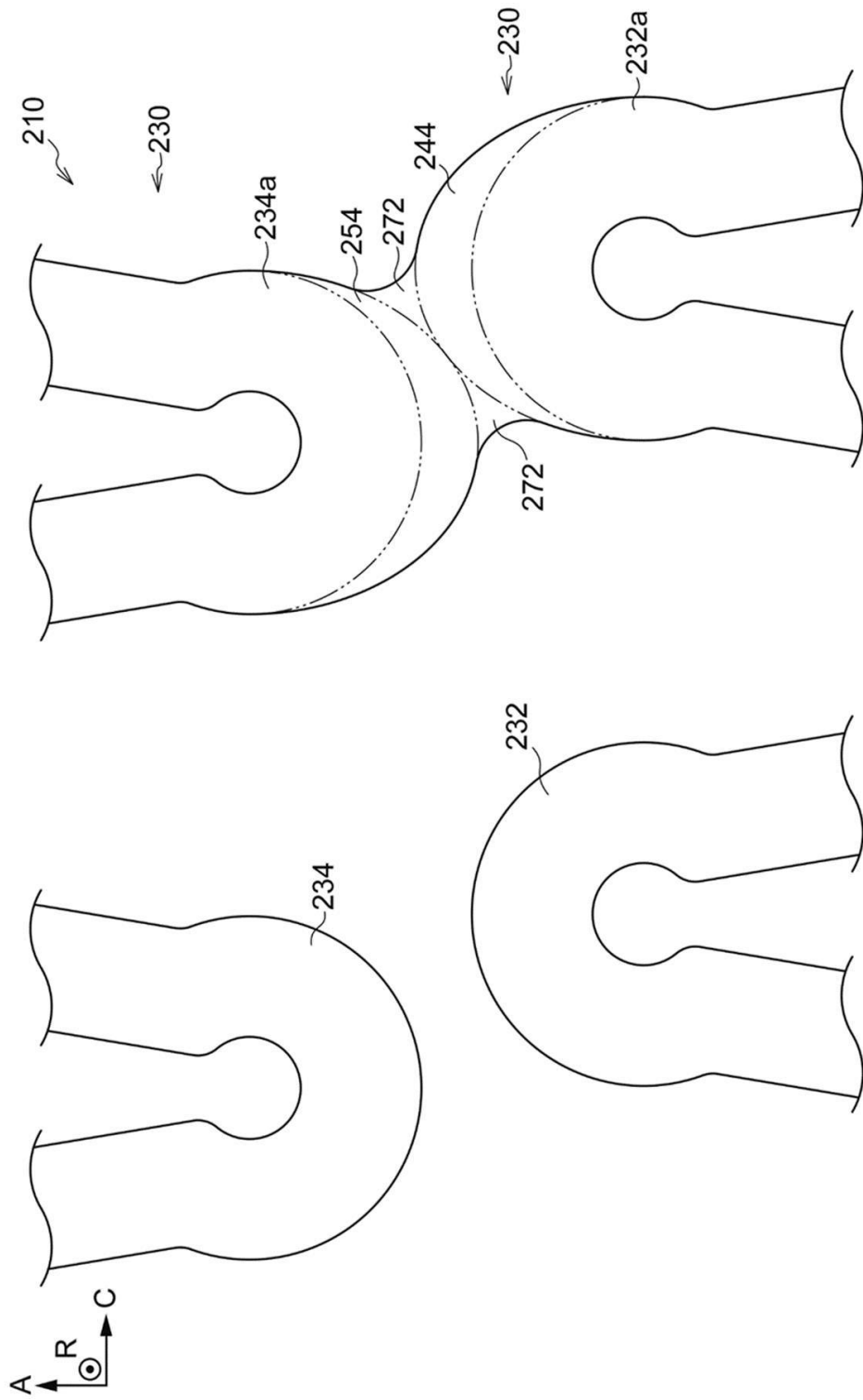
20

30

40

50

【図 6】



10

20

30

40

50